

こんにちは婦人会「さくら」です

二十四節季の処暑も過ぎ、朝晩の風がだいぶ涼しくなり、夏の終わりを告げるかのようにツクツクボウシやヒグラシの声が聞こえます。日が落ちる頃には庭のあちこちから虫の音が聞こえるようになりました。そうそう、22日の土曜日に恒例の夏祭りが開催されました。大変暑い日でしたが、子供神輿の掛け声に太鼓の音、夜店に並ぶ人、やぐらの周りに集まった大きな輪。盆踊りの曲が流れると、曲に合わせた太鼓の音色が響きます。今年も大勢の方々が楽しそうに踊っていました。

～婦人会・暮らしのエッセンス～

夏の終わりを告げる蝉。ツクツクボウシは、早ければ7月の終わり位から鳴いているそうですが、ほかの蝉よりは声が小さいので、ほかの蝉が減った8月中旬以降になって、ようやく声ははっきり聞き取れるようになるのだそうです。身を振り絞って鳴くその鳴き声は「ツクツクホーシ またはオーシツクツク」と聞こえるようです。この鳴き声で名前が付いたとも言われています。ヒグラシは、俳句の世界では秋の季語とされ、晩夏に鳴くイメージがあるが、6月下旬頃から9月中旬頃まで鳴き声を聞くことができます。夕方の日暮れ時近くに鳴くことから「日を暮れさせるもの」としてヒグラシと和名がついたそうです。晩夏、初秋の風物詩としてこの時期にしか聞こえない蝉の鳴き声に耳を傾けてみてはいかがでしょうか。(インターネット引用)



婦人会「さくら」
平成27年8月28日
第163号